

第 5 章 環境影響要因の抽出及び環境影響評価項目の選定

第5章 環境影響要因の抽出及び環境影響評価項目の選定

5.1 環境影響要因の抽出

本事業の事業計画の内容をもとに、環境に影響を及ぼすおそれのある要因（以下、「環境影響要因」といいます。）を工事中と供用時の各段階で、表 5. 1-1 に示すとおり抽出しました。

表 5. 1-1 環境影響要因の抽出

項目		抽出の理由	
工 事 中	建設機械の稼働	・ 構造物の解体、計画建築物の建設のために、対象事業実施区域で建設機械が稼働します。	
	工事用車両の走行	・ 構造物の解体、計画建築物の建設のために、資機材の運搬や廃棄物等の搬出を行う車両が周辺道路を走行します。	
	地下掘削	・ 計画建築物の建設（地下躯体）のために対象事業実施区域内を掘削します。	
	建物の建設	・ 既存の構造物を解体し、計画建築物を建設します。	
供 用 時	施設が存在	建物の存在	・ 高層建築物が対象事業実施区域に出現します。
	施設の供用	建物の供用	・ 計画建築物に設置する熱源施設や、換気及び空調の設備機器が稼働します。 ・ 従業員や一般の人々が施設を利用します。
		関連車両の走行	・ 計画建築物を利用する一般車両や荷捌き車両が周辺道路を走行します。

5.2 環境影響評価項目の選定

環境影響要因の抽出を踏まえ、地域の概況及び周辺地域等の環境特性、地域特性を勘案し、環境影響評価を行う項目（以下、「環境影響評価項目」といいます。）を表 5. 2-1 に示すとおり整理しました。

なお、工事中及び供用時の各時期で環境影響評価項目として選定した理由及び選定しない理由は、表 5. 2-2 に示すとおりです。

表 5.2-1 環境影響要因と環境影響評価項目の関連

環境の保全及び創造に向けた基本的な考え方	環境影響評価項目	細目	環境影響要因	工事中				供用時		
				建設機械の稼働	工事用車両の走行	地下掘削	建物の建設	施設の使用		関連車両の走行
								施設の使用	施設の供用	
地球環境への負荷の低減	温室効果ガス	温室効果ガス	●	●				●		
身近な自然環境の保全・再生・創造	生物多様性	植物	植物					●		
		動物	動物					●		
		生態系	生態系					●		
	水循環	地下水水位及び湧水の流量								
河川の形態、流量										
海域の流況										
安心して快適に生活できる生活環境の保全	廃棄物・建設発生土	一般廃棄物				●		●		
		産業廃棄物				●		●		
		建設発生土			●					
	大気質	大気汚染		●	●				●	
	水質・底質	公共用水域の水質								
		公共用水域の底質								
		地下水の水質								
	土壌	土壌汚染				●				
	騒音	騒音		●	●				●	
	振動	振動		●	●				●	
	地盤	地盤沈下				●				
	悪臭	悪臭								
	低周波音	低周波音								
	電波障害	テレビジョン電波障害						●		
	日影	日照阻害						●		
		シャドーフリッカー								
風害	局地的な風向・風速						●			
安全	土地の安定性									
	浸水						●			
	火災・爆発									
	有害物漏洩									
快適な地域環境の確保	地域社会	地域分断								
		交通混雑			●			●	●	
		歩行者の安全			●				●	
	景観	景観						●		
	触れ合い活動の場	触れ合い活動の場								
文化財等	文化財等									

注) ●は選定した項目を示します。

表 5. 2-2 (1) 環境影響評価項目を選定した理由・選定しない理由（工事中）

環境影響評価項目		選定の有無	選定した理由・選定しない理由
大項目	細目		
温室効果ガス	温室効果ガス	○	大規模な高層建築物を建設する工事であることから、建設機械の稼働及び工事用車両の走行に伴う温室効果ガスの排出量を環境影響評価項目として選定します。
生物多様性	植物	×	対象事業実施区域は、市街化が進んできた地域に属しています。また既に人工的な改変を受けた区域であり、注目すべき動物、植物の主な生息・生育環境はないことから、環境影響評価項目として選定しません。
	動物	×	
	生態系	×	
水循環	地下水位及び湧水の流量	×	本事業では地下に構造物を建設する計画としていますが、工事にあたっては、掘削区域の周囲に止水性の高い山留壁等を不透水層まで設置し、地下水の循環等への影響を軽減していく計画としています。また、対象事業実施区域周辺に湧水地点はありません。そのため、本事業が地域の水循環に対し、著しい影響を及ぼすことはないと考え、環境影響評価項目として選定しません。
	河川の形態、流量	×	本事業において、河川並びに海岸線等の改修計画等はありません。また、工事中の排水は、放流先の公共下水道に応じた適正な量を、沈砂槽等により排水基準以下に処理を行った後に放流する計画としています。
	海域の流況	×	そのため、河川の形態、流量、海域の流況に影響を及ぼすことはないと考え、環境影響評価項目として選定しません。
廃棄物・建設発生土	一般廃棄物	○	本事業の工事中に事業系一般廃棄物の発生が想定されることから、環境影響評価項目として選定します。
	産業廃棄物	○	本事業の工事中には、構造物の解体・撤去及び計画建築物の建設に伴い、産業廃棄物の発生が想定されることから、環境影響評価項目として選定します。
	建設発生土	○	本事業では地下に構造物を建設する計画としていますが。そのため、建設発生土が生じることから、環境影響評価項目として選定します。
大気質	大気汚染	○	工事中の建設機械の稼働及び工事用車両の走行に伴う排出ガスが対象事業実施区域周辺の大気質に影響を及ぼす可能性があることから、環境影響評価項目として選定します。
水質・底質	公共用水域の水質	×	本事業において、河川及び海域の水質へ影響を及ぼす工事はありません。また、工事中の排水は、沈砂槽等により排水基準以下に処理を行ってから公共下水道に放流する計画としています。そのため、公共用水域の水質・底質、地下水の水質に著しい影響を及ぼすことはないと考え、環境影響評価項目として選定しません。
	公共用水域の底質	×	
	地下水の水質	×	
土壌	土壌汚染	○	対象事業実施区域の過去の報告書において、区域内の一部に鉛や砒素による汚染土壌が確認され、一部を除いて対策が講じられた記録がありますので、その内容等とともに、対策方法等を明らかにするために環境影響評価項目として選定します。
騒音	騒音	○	工事中の建設機械の稼働及び工事用車両の走行に伴う騒音が、対象事業実施区域周辺の生活環境に影響を及ぼす可能性があるため、環境影響評価項目として選定します。
振動	振動	○	工事中の建設機械の稼働及び工事用車両の走行に伴う振動が、対象事業実施区域周辺の生活環境に影響を及ぼす可能性があるため、環境影響評価項目として選定します。

表 5. 2-2 (2) 環境影響評価項目を選定した理由・選定しない理由（工事中）

環境影響評価項目		選定の有無	選定した理由・選定しない理由
大項目	細目		
地盤	地盤沈下	○	<p>対象事業実施区域周辺の地盤には、東京湾に向かって徐々に軟弱地盤層が厚く分布しています。</p> <p>対象事業実施区域においても、0～5m程度の軟弱地盤層が分布する可能性があると考えられています。そのため、地下構造物の建設に伴う地下掘削による周辺地盤への影響を想定し、環境影響評価項目として選定します。</p>
悪臭	悪臭	×	<p>本事業では、著しい悪臭を発生させる工事計画や資材等の使用の予定はないことから、環境影響評価項目として選定しません。</p>
低周波音	低周波音	×	<p>本事業の工事では、特殊な工法を用いる計画はなく、使用する建設機械は市街地の建設工事で一般的に使用される建設機械であるため、日常生活に支障となるような低周波音を発生させることはないと考えます。また、コンプレッサー等、低周波音を発生する建設機械を使用する場合には、機種を選定や使用方法に十分配慮します。</p> <p>そのため、対象事業実施区域周辺の生活環境に著しい影響を及ぼすことはないと考え、環境影響評価項目として選定しません。</p>
電波障害	テレビジョン電波障害	×	<p>本事業の工事では、クレーンの未使用時にはブームを電波到来方向に向ける等の適切な障害防止対策を講じていきます。また、工事中において、本事業に起因するテレビ電波受信障害が生じた場合には、障害の実態を調査、確認のうえ、必要に応じて適切な対策を講じていきます。</p> <p>そのため、環境影響評価項目として選定しません。</p>
日影	日照阻害	×	<p>本事業の工事が、対象事業実施区域周辺に対する日照阻害の要因にはならないと考え、環境影響評価項目として選定しません。</p>
	シャドーブリッカー	×	<p>本事業の工事が、対象事業実施区域周辺に対するシャドーブリッカーの要因にはならないと考え、環境影響評価項目として選定しません。</p>
風害	局地的な風向・風速	×	<p>本事業の工事が対象事業実施区域周辺の風環境を変化させる要因にはならないと考え、工事中は環境影響評価項目として選定しません。なお、工事中の建設資材は飛散等しないよう、固定や養生を行います。</p>
安全	土地の安定性	×	<p>対象事業実施区域は平坦地であり、工事が斜面崩壊を生じさせることはないことから、環境影響評価項目として選定しません。</p>
	浸水	×	<p>対象事業実施区域は、高潮や津波による浸水のおそれのある区域に指定されています。工事中は、日常的に降水予報等の防災情報を確認し、必要に応じて土嚢を設置する等、十分な浸水対策、排水設備等を設置するとともに、作業員の安全確保にも十分配慮していくことから、環境影響評価項目として選定しません。</p>
	火災・爆発	×	<p>本事業の工事において、可燃物や有害物質を大量に蓄積することはないと見込まれ、また、関係者以外の立ち入り等はありません。</p>
	有害物漏洩	×	<p>工事の実施にあたり安全管理については徹底していくことから、環境影響評価項目として選定しません。</p>

表 5.2-2(3) 環境影響評価項目を選定した理由・選定しない理由（工事中）

環境影響評価項目		選定の 有無	選定した理由・選定しない理由
大項目	細目		
地域社会	地域分断	×	<p>本事業の工事に伴い、地域分断するような交通経路の遮断は行いませんので、環境影響評価項目として選定しません。</p> <p>なお、工事中は、適切な位置に交通誘導員を適宜配置し、現状の歩行空間を分断せず、歩行者の安全を確保していきます。</p>
	交通混雑	○	<p>工事用車両の走行が、周辺道路の交通混雑に影響を生じさせる要因になる可能性があるため、環境影響評価項目として選定します。</p>
	歩行者の安全	○	<p>工事用車両の走行が、周辺道路の歩行者の安全性に影響を生じさせる要因になる可能性があるため、環境影響評価項目として選定します。</p>
景観	景観	×	<p>本事業の工事において設置する仮設物は、対象事業実施区域の周辺状況に応じた配置・規模とするように配慮することから、環境影響評価項目として選定しません。</p> <p>なお、対象事業実施区域周辺は一年を通じて来街者等が多く集まる地域であるため、工事にあたっては、清潔感等に配慮した仮設・養生材等の使用に努めていきます。</p>
触れ合い活動の場	触れ合い活動の場	×	<p>対象事業実施区域に人と自然との触れ合い活動の場はありません。また、対象事業実施区域周辺の人と自然との触れ合い活動の場へつながる主要なアクセス道路もありません。そのため、環境影響評価項目として選定しません。</p>
文化財等	文化財等	×	<p>対象事業実施区域に文化財及び埋蔵文化財包蔵地の記録はありません。また、旧灯台寮護岸に続く護岸については変更しないため、環境影響評価項目として選定しません。</p>

表 5.2-2(4) 環境影響評価項目を選定した理由・選定しない理由（供用時）

環境影響評価項目		選定の有無	選定した理由・選定しない理由
大項目	細目		
温室効果ガス	温室効果ガス	○	施設の供用に伴い、設備機器等から定常的に温室効果ガスを排出することになるため、環境影響評価項目として選定します。
生物多様性	植物	○	<p>対象事業実施区域は、市街化が進んできた地域に属しています。既に人工的な改変を受け、現存する植生は人工的なものであり、生息・生育する種は市街地に適応した種が中心と考えられます。</p> <p>まとまった緑地・草地は、対象事業実施区域北側の自動車や東側の赤レンガパークがあり、これらが対象事業実施区域周辺における生物の生息場所の核となっています。</p> <p>本事業では、郷土種等を踏まえた樹種を選定し、対象事業実施区域に可能な範囲で緑地を創出するとともに、隣接する北仲通北第二公園の緑地との連続性にも配慮することとしています。</p> <p>供用時には、これら緑地が対象事業実施区域周辺に生息している動物の移動経路や新たな利用環境となる可能性があるため、対象事業実施区域の植物相、動物相及び生態系の変化の内容及びその程度を対象として「植物」、「動物」及び「生態系」を環境影響評価項目として選定します。</p>
	動物	○	
	生態系	○	
水循環	地下水位及び湧水の流量	×	供用時に、地下水及び湧水を利用する計画はなく、地下水位及び湧水の流量、河川の形態、流量並びに海域の流況に変化を生じさせる要因はないことから、環境影響評価項目として選定しません。
	河川の形態、流量	×	
	海域の流況	×	
廃棄物・建設発生土	一般廃棄物	○	施設の供用に伴い、一般廃棄物の発生が予想されるため、環境影響評価項目として選定します。
	産業廃棄物	○	施設の供用に伴い、産業廃棄物の発生が予想されるため、環境影響評価項目として選定します。
	建設発生土	×	供用時に建設発生土は発生しないため、環境影響評価項目として選定しません。
大気質	大気汚染	○	計画建築物に設置する設備機器の稼働及び関連車両の走行に伴う排出ガスが、対象事業実施区域周辺の大気環境に影響を及ぼす可能性があるため、環境影響評価項目として選定します。
水質・底質	公共用水域の水質	×	施設の供用に伴い発生する排水は、公共下水道に放流するため、公共用水域の水質・底質、地下水の水質に影響を及ぼすことはないと考え、環境影響評価項目として選定しません。
	公共用水域の底質	×	
	地下水の水質	×	
土壌	土壌汚染	×	供用時に土壌を新たに汚染させるような土地利用は行わないため、環境影響評価項目として選定しません。
騒音	騒音	○	計画建築物に設置する設備機器等の稼働及び関連車両の走行に伴う騒音が、対象事業実施区域周辺の生活環境に影響を及ぼす可能性があるため、環境影響評価項目として選定します。
振動	振動	○	関連車両の走行に伴う振動が、対象事業実施区域周辺の生活環境に影響を及ぼす可能性があるため、環境影響評価項目として選定します。

表 5. 2-2 (5) 環境影響評価項目を選定した理由・選定しない理由（供用時）

環境影響評価項目		選定の有無	選定した理由・選定しない理由
大項目	細目		
地盤	地盤沈下	×	供用時に地盤沈下を招くような地下水の揚水は行わないため、環境影響評価項目として選定しません。
悪臭	悪臭	×	供用時に、対象事業実施区域において著しい悪臭を発生させるような設備の設置計画はないことから、環境影響評価項目として選定しません。
低周波音	低周波音	×	計画建築物に低周波音を著しく発生させる設備の導入計画はありません。また、設備機器は定期的なメンテナンスを実施することで、機能維持に努めていきます。 そのため、環境影響評価項目として選定しません。
電波障害	テレビジョン電波障害	○	計画建築物の存在により、対象事業実施区域周辺の電波受信環境を変化させる可能性があることから、環境影響評価項目として選定します。
日影	日照阻害	○	計画建築物の存在により、対象事業実施区域周辺の日照状況を変化させる可能性があることから、環境影響評価項目として選定します。
	シャドーフリッカー	×	供用時にシャドーフリッカーを生じさせる施設の設置等はないため、環境影響評価項目として選定しません。
風害	局地的な風向・風速	○	計画建築物の存在により、対象事業実施区域周辺の風環境を変化させる可能性があることから、環境影響評価項目として選定します。
安全	土地の安定性	×	対象事業実施区域は平坦地であり、事業の実施等により斜面崩壊を生じさせる要因はないため、環境影響評価項目として選定しません。
	浸水	○	対象事業実施区域は、高潮や津波による浸水のおそれのある区域に指定されています。また、昨今のゲリラ豪雨や大型の台風等による浸水被害が、各地で報告されていることを踏まえ、必要な対策を検討していく必要があることから、環境影響評価項目として選定します。
	火災・爆発	×	供用時に、対象事業実施区域において常時燃焼を伴うような設備・施設や有害物質を蓄積するような施設の設置計画はありません。施設の運営にあたっては、安全管理を徹底させていくことから、環境影響評価項目として選定しません。
	有害物漏洩	×	
地域社会	地域分断	×	本事業の実施は、地域を分断するような交通経路の遮断を伴うものではないため、環境影響評価項目として選定しません。
	交通混雑	○	施設の供用に伴う関連車両の走行が、周辺道路の交通混雑及び交通安全の状況を変化させる可能性があるため、環境影響評価項目として選定します。また、施設の供用に伴い、歩行者の交通混雑の状況を変化させる可能性があるため、環境影響評価項目として選定します。
	歩行者の安全	○	
景観	景観	○	計画建築物の存在により、対象事業実施区域周辺からの景観を変化させる要因になると考えられることから、環境影響評価項目として選定します。
触れ合い活動の場	触れ合い活動の場	×	対象事業実施区域に人と自然との触れ合い活動の場はありません。また、対象事業実施区域周辺の人と自然との触れ合い活動の場へつながる主要なアクセス道路もありません。そのため、環境影響評価項目として選定しません。
文化財等	文化財等	×	対象事業実施区域に文化財及び埋蔵文化財包蔵地の記録はありません。そのため、環境影響評価項目として選定しません。

